

今年度も、いよいよ終わりが近づいてきましたね。園庭の空気にも、少しずつ春の気配が感じられるようになりました。

この一年を振り返ると、子どもたちが何かに夢中になっている姿を、たくさん見ることができた一年だったように思います。とくに今年は、けん玉に熱中する子どもたちの姿がとても印象に残っています。最初はなかなか思うようにいなくても、何度も何度も挑戦する。どうやったらうまくいくのだろうと、自分なりに工夫してみる。できるようになった友だちの姿を見て、また挑戦してみる。そんな姿が、園のあちらこちらで見られました。

なかには家に帰ってからも練習している子もいて、「いままでできなかった技ができるようになったよ」とうれしそうに見せてくれることもありました。好きだからこそ続けられる。楽しいからこそ、自然と努力が積み重なっていく。そんな姿を見ながら、改めて「努力は夢中に勝てない」という言葉を思い出しました。

子どもたちがけん玉に取り組む姿を見ていると、「どうしたらできるんだろう？」という小さな問いが、たくさん生まれているように感じます。腕の動かし方は？力の入れ方は？体の動きは？自分の体と対話するように、何度も試してみる。そのなかで、少しずつできるようになっていく。そうした経験そのものが、子どもたちの大切な学びになっているのだと思います。

実は、そんな子どもたちの姿に刺激を受けて、私自身も再びけん玉を始めました。そしてこの一年のあいだに、GLOBALけん玉の「けん玉先生」の資格も取得しました。子どもたちと一緒に技に挑戦しながら、「なるほど、こうするといいのか」と気づくことも多く、私自身も夢中になって楽しんでいきます。子どもたちが夢中になる姿には、不思議な力があります。見ている大人まで、なんだか挑戦したくなってくるのです。

先日、園の見学に来られた方が、わが園の子どもたちの様子を見て「この子どもたちはボトムが低いですね」と話してくださいました。最初は意味がよく分からなかったのですが、「浮ついていないというか、それぞれが自分の好きな遊びに腰を据えてじっくり取り組んでいる、重心が低い感じですね」というような、うれしい言葉でした。

子どもたち一人ひとりが、自分の好きなことを見つけ、じっくり取り組む。そのなかで、小さな問いを持ち、試し、考え、またやってみる。そうした時間が、子どもたちの中に静かに力を育てているのだと思います。

もうすぐ卒園を迎える子どもたちとの別れも近づいてきました。毎年のことですが、この時期になると、うれしさと同時に、やはり少しさみしい気持ちになります。小さかった子どもたちが、それぞれに成長し、次の場所へと歩き出していく姿は本当に頼もしいものです。

この園で過ごした日々のなかで見つけた「好きなこと」や「夢中になった経験」が、これからの人生のどこかで、きっと力になってくれることを願っています。

これまで園を支えてくださった保護者の皆さま、本当にありがとうございました。卒園されるご家庭の皆さまには、これから始まる新しい毎日が、実り多いものになりますよう心より願っています。そして在園のご家庭の皆さまには、来年度も子どもたちの育ちを一緒に見守っていただければうれしく思います。

これからも、子どもたちが夢中になれる時間を大切にしながら、共に歩いていけたらと思います。

